

授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：古代インドの社会 学際研究的アプローチを探る ILAS Seminar :The ancient Indian society - An attempt at interdisciplinary approach -			担当者所属 職名・氏名	白眉センター 特定准教授 天野 恭子		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール
開講年度・ 開講期	2018・前期	受講定員 (1回生定員)	25 (15) 人	配当学年	主として1回生	対象学生	全学向
曜時限	木5	教室	人文科学研究所209号室天野研究室 (本部構内)			使用言語	日本語
キーワード	古代インド / 学際的研究 / 考古学 / 文化人類学 / 社会学						
<b>[授業の概要・目的]</b>							
<p>古代インドには、宗教・哲学文献が多く残されているが、そのうち紀元前1200年から500年頃の成立といわれる所謂ヴェーダ文献は、世界の古代文献史の中でも非常に重要かつ豊富な資料を提供する。しかし、当時のインドで人々がどのような生活を送っていたのかを知るの簡単ではない。それは、ヴェーダ文献の内容が、当時の宗教儀礼を中心とし、それら儀礼の詳細とそれに纏わる議論のみを関心としており、社会や生活に関する記述が極端に少ないこと、さらに、ヴェーダ祭式の挙行と文献の編纂を一手に担っていたバラモンの視点からのみ書かれているため、記述に大きなバイアスがかかっていると考えられるためである。</p> <p>このような問題は、古代の文献を扱う分野においては、大なり小なり起こる問題であろう。この問題について学際研究的アプローチから解決の糸口を見出す。それがこのセミナーの研究目的である。</p> <p>古代の文献に「書かれていない」ことを探る。そのために、どのような分野からのアプローチが可能か。例えば、考古学の発見から当時の社会を知る、社会学から古代社会形成のモデルを学ぶ。様々なアプローチが考えられるであろう。学際的研究においては、アプローチそのものを新しく発想することが求められる。本セミナーにおいても、参加者の自由な発想に期待したい。</p> <p>アプローチを得たい他分野に的が絞れば、次は学際的共同研究に向けて行動を起こす。どの分野に、どのような研究をしている研究者がいるかを自分たちで調査し、質問をして回答をお願いする、ゲストスピーカーとしての講義を依頼する、などの働きかけをして、このセミナーにおいて共同研究を実現させていく。</p> <p>問題提起、問題点の整理、学際的共同研究の立案と実現までを、一貫して行い、経験を積むことが、セミナーの教育的目標である。</p>							
<b>[到達目標]</b>							
<p>古代社会の研究における問題点を提起、整理し、問題解決の糸口を自由な発想で提案する。考えられる学際的共同研究について、協力をお願いするパートナーを探すことにより、分野や研究者について情報を得る手法を学ぶ。実際に共同研究への協力を依頼することにより、学術研究におけるコミュニケーションを学ぶ。様々な分野の研究者より得た専門知識を、もう一度自らが一つのテーマに集約してまとめ上げることにより、多角的で多様なアプローチで一つの問題に取り組み、解決する力を養う。</p>							
<b>[授業計画と内容]</b>							
<p>第1 - 2回：古代インドについての基礎知識を得る。古代インドの文献に触れる（日本語で解説します。サンスクリット語の知識は必要ありません）。</p> <p>第3回：古代インドの社会について、何が明らかで何が明らかでないか、問題を整理する。</p>							
ILASセミナー：古代インドの社会 学際研究的アプローチを探る (2)へ続く							

第4回：ディスカッション：どの問題にどのような分野の研究が有用か、参加者皆で考える。インターネット等を用いて情報を収集する。

第5回：ディスカッション：共同研究を立案する。3、4つのテーマを決め、グループに分かれて具体的な計画を立てる。どのような研究者に協力を依頼するか、など。

第6回：グループでの作業：各分野の研究者に投げかけてみたい質問を整理する。質問や講演依頼を実際に作成する。

第7回：発表：各分野における「古代インド社会」あるいは「古代社会」「遊牧社会」に関わる研究について短い発表を行い、予備知識として参加者皆で共有する。

第8 - 11回：学際的共同研究：各分野からのゲストスピーカーの講演。あるいは、質問に対して得た回答をそれぞれのグループが発表する。

第12回：まとめとグループ作業：成果発表の準備。

第13 - 14回：参加者による研究成果発表。

第15回：フィードバック（フィードバック期間中に行う。やり方は授業中に指示する）

#### 【履修要件】

特になし

#### 【成績評価の方法・観点及び達成度】

討論およびグループ作業（30点）、小発表（20点）、成果発表（50点）

#### 【教科書】

授業中に指示する

#### 【参考書等】

（参考書）

山崎元一 『古代インドの文明と社会』（中央公論社）ISBN:4124034032

前田専學 『インド哲学へのいざない：ヴェーダとウパニシャッド』（日本放送出版協会）ISBN:4140841265

#### 【授業外学習（予習・復習）等】

授業中に指示する。

#### 【その他（オフィスアワー等）】

参加者が自由な発想で新たな研究の視点を提案してくれることを期待しています。ディスカッションやグループ作業での情報収集、発表の準備などを通じて、共同作業による創造性の高まりを感じられる場となることを期待しています。